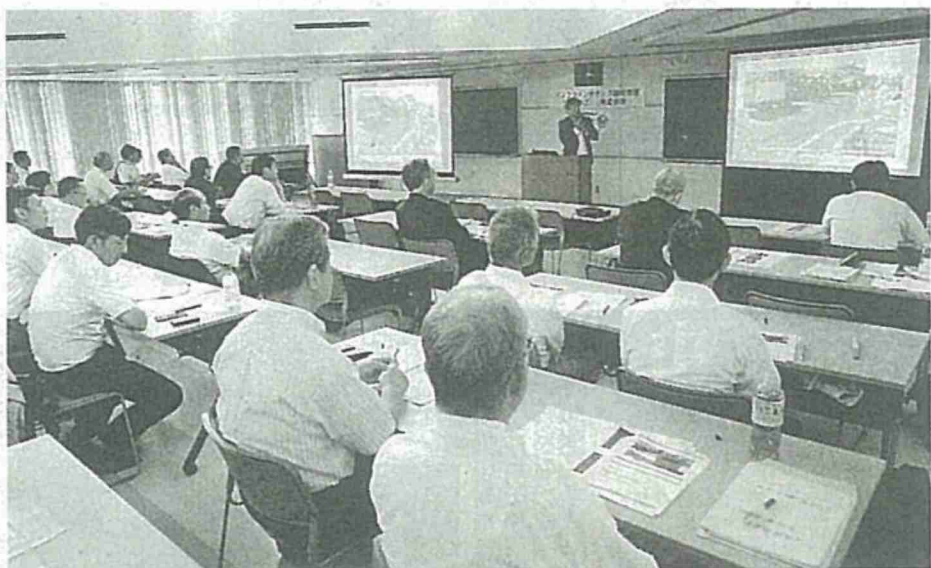


# 老朽インフラ課題共有

## 5県の産学官連携会議 広島で設立総会



公共施設の老朽化対策について情報共有する参加者

道路や橋などの公共施設の老朽化対策を産学官が連携して進める「インフラメンテナンス国民会議ちゅうごく」の設立総会が28日、広島市中区であった。中国地方5県の自治体や建設業、大学などの関係者たち約80人が参加。インフラの効率的な維持管理に向けた課題を共有した。

国土交通省が2016年11月に設けた同国民会議の地方版で、中国地方整備局が設立を後押しした。官民のセミナーや実証実験などを重ね、地域発の技術開発や住民を巻き込んだ連携のモデルづくりに取り組む。この日は、リーダーに就いた広島大の藤井堅名誉教授（維持管理工学）が講演。

高度経済成長期に整備されたインフラの老朽化が一気に押し寄せる中、「官民ともに、お金と人手がかからない新しいやり方が必要」と強調。地域住民による点検システムの構築や、技術

の効率的な活用を呼び掛けた。  
岡山工業高（岡山市北区）の狩屋雅之実習教諭は、生徒による国道パトロールの取り組みを紹介。スマートフォンを使ったシステムで地元の国道事務所や維持業者と情報共有し、補修につなげるといった成果を報告した。  
（松本大典）